

カンタン (学名: *Oecanthus longicauda*) [バッタ目マツムシ科]

(写真・文 緒勝祐太郎)



◀カンタンのオス(左)とメス(右)



◀クズの葉の切れ目から身を乗りだして鳴くオス

ススキの穂が風に揺れ、秋が深まると、野外はコオロギやキリギリスの仲間が奏でる音色に包まれます。「虫のこえ」という有名な童謡があるように、日本ではこうした秋に鳴く虫たちの声に耳を傾け、季節を感じるという文化が育まれてきました。鳴き声は種によって異なりますが、「ルルルルル・・・」というひとときわ上品で美しい音色を響かせる、カンタンという昆虫がいます。

カンタンは体長約1.5cmと小型で、全体的に淡い黄緑色をしています。メスの腹部の先端には、オスにはない細長い産卵管さんらんかんが備わっているため、雌雄の識別は容易にできます。本種は、北海道から九州にかけて広く分布し、只見でも町内全域で見られます。主にクズやススキなどが生い茂った林縁や明るい草地に生息しています。成虫は8月から10月にかけて出現しますが、夏は暑い日中を避けて夜に鳴き、秋になり気温が徐々に下がると昼間も鳴くようになります。また、オスはクズのような幅の広い葉にできた切れ目や、虫食いの穴から体を乗り出して鳴くという面白い習性があります。しかし不思議なことに、この鳴き声をたよりに姿を探してもどこで鳴いているのかが分からなくなることがあり、見つけるのは容易ではありません。鳴き声がまわりの葉などに反響し合うことで、虫のいる方向が定かではなくなることが、理由の一つであるかもしれません。

只見町ブナセンターからのお知らせ

只見町ブナセンター附属施設「ただみ・ブナと川のミュージアム」では、下記のとおり企画展(改訂版)「只見の野生動物とその生態」を開催いたします。お誘い合わせのうえ、ぜひお越しください。

企画展(改訂版)

会期:2020年10月10日(土)~2020年12月14日(月)

「只見の野生動物とその生態」

場所:ただみ・ブナと川のミュージアム 2階ギャラリー

※この広報紙は再生紙を使用しています



※環境にやさしい大豆油インキを使用しています